

「情報公開文書」

単施設研究用

研究課題名：声門癌 cT3N0 症例に対する frontolateral vertical partial laryngectomy（前側方喉頭部分切除術）の治療成績と機能的転帰

1. 研究の対象

2014年1月から2024年12月に声門癌 cT3N0 と診断され、当院で前側方喉頭部分切除術もしくは他の一次治療を受けられた方

2. 研究目的・方法

喉頭癌は頭頸部癌の中で頻度の高い癌であり、その中でも声門癌は喉頭癌の中でも約70%と高頻度です。局所進行喉頭癌に対しては従来、喉頭全摘術による根治的治療が行われていましたが、失声・永久気管孔をはじめとする喉頭の損失は生活の質を著しく低下させます。近年では局所進行喉頭癌に対しても喉頭温存戦略が進んできており、喉頭温存治療として主に化学療法併用放射線療法が行われています。しかしながら、年齢や併存症により不適および治療完遂できない例も多く、また治療後の障害による嚥下機能障害や誤嚥など喉頭機能が低下する場合があります。喉頭を温存する喉頭部分切除術もありますが、主に早期癌症例が対象となります。ガイドラインでは選択的な進行癌症例に対して適応と記載されていますが、どのような症例が適切か具体的に明記はされておられません。当科でも選択的に腫瘍が前方に位置し、切除可能と判断される局所進行(cT3N0)声門癌症例に対し(前側方)喉頭部分切除術を行っており、本研究では、同術式の治療成績および術後喉頭機能や化学療法併用放射線療法との比較、適応症例について検討し、局所進行(cT3N0)声門癌に対する有用性を評価することを目的としています。

3. 研究期間

研究実施許可日～2028年3月31日

4. 研究開始の予定日（研究のために情報を利用開始する予定日）

2026年2月10日

5. 研究に用いる試料・情報の項目

カルテ番号、性別、年齢、喉頭内視鏡検査、CT検査、MRI検査、PET-CT検査、入院日、手術日、退院日、術後経口摂取開始日、術後合併症、術後病理結果、術後治療、術後再発、再発後治療、再発日、死亡日、死因

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

宮城県立がんセンター治験・臨床研究管理室 倫理審査委員会担当
〒981 - 1293 宮城県名取市愛島塩手字野田山 47 の 1
TEL 022-384-3151（代表）（内線 974）

研究責任者：宮城県立がんセンター頭頸部外科 八木一剛